



執行委員長 下川光男

あ ん き ょ ら く ぎ ょ う

安居楽業

～自分の置かれている環境に不満がなく、
仕事を楽しくできる状況にあることへ

新年明けましておめでとうございます。

組合員並びにご家族の皆様におかれましては、素晴らしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

日本経済は、緩やかな回復傾向にあると言われています。しかし国及び地方の長期債務残高は、年々積み上がり1000兆円を超え、政府は2020年度にプライマリー・バランス(国や地方自治体などの基礎的な財政収支)を黒字化しようと目標を掲げていますが、現在の推移からみても収支が改善する傾向ではありません。このことは、日本が破綻する恐れを孕んでおり、労働者にとっても雇用・賃金等に影響を及ぼしかねない深刻な問題であると言えます。

私たちは、働く者が結集する連合が掲げる「働くことを軸とした安心社会」の実現に向け構成産別の仲間とともに運動を展開して行くことが重要です。

さて、全印刷局労働組合は、1947年4月1日に「人生は永遠なり」「全印刷も永遠なり」と結成宣言を掲げ、昨年70周年を迎えました。

私たち現役組合員は、今後においても諸先輩達が築きあげてきた70年にわたる労働運動の歴史と伝統を重く受け止め襷を受け取り、全組合員と執行部と連携を図りながら労働組合の綱領である、主体性・労働者の基本的権利・人間尊重と労働尊重・恒久平和を肝に命じ労働運動を展開してきています。

これまでの代表的な全印刷の闘争として、1996年の橋本内閣から20年余り続いてきた行革闘争は「2015年行政執行法人への移行」により印刷局事業は、更に国への関与が強まり、「事業の安定運営」「組合員の雇用と労働条件の安定確保」を求める取り組みは、前進したことになりました。経営形態移行後においても、これまでと同様に国立印刷局の使命・役割は変わるものではありません。引き続き、高度な偽造防止技術及び厳格な品質保証・数量管理体制を持って、社会において通貨に対する信用・信頼を得るために、日銀券を安定的かつ確実に製造し、通貨制度の安定に寄与することが重要です。

一方、通貨の動きとして、近年における電子マネーの普及等の影響により世界では、キャッシュレス社会が進められています。既にスウェーデンでは、現金使用率2%とキャッシュレス化が進み、インドでは高額券の廃止等、各国もキャッシュレス社会を進行させようとする動きがあります。

日本でも、金融庁と経済産業省では、クレジットカードなどでお金を支払うキャッシュレス決済比率を10年間で40%に引き上げると言った議論が進められています。このことは、将来の日本銀行券の製造数量に大きく影響を及ぼすことが想定でき、組合員の雇用も危ぶまれ生活基盤に直結することと言えます。今後の政府の動向を注視するとともに、私たちに出来ることは、国民が安心して使用できる紙幣を引き続き製造し、日本銀行券の存在価値を今以上に高め、キャッシュ社会の必要性を政府や国民にアピールしていくことが重要です。

最後になりますが、全印刷小田原支部は、安居楽業のごとく「組合員のやりがい」「働きがい」が将来にわたって持てるよう、引き続き、全組合員参加型を基本に取り組んでいきます。

本年も一層のご理解とご協力をお願い致しますとともに、組合員並びにご家族の皆様が安全・健康で明るく希望に満ちた良い年でありますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

共に頑張りましょう。

1945年(昭和20年)

12月 6日 酒匂工場従業員組合結成(現小田原支部)

12月28日 滝野川工場従業員組合結成

1946年(昭和21年)

1月19日 市ヶ谷工場従業員組合結成

1月29日 王子工場従業員組合結成

1月30日 武生工場従業員組合結成

2月 1日 静岡工場従業員組合結成

2月 2日 西大寺工場従業員組合結成

2月10日 本局従業員組合結成

3月 9日 彦根工場従業員組合結成

1946年(昭和21年)

4月 1日 病院従業員組合結成

4月 1日 印刷局従業員組合連合結成

1947年(昭和22年)

4月 1日 全印刷局労働組合結成

全印刷の歴史

